

○言語学研究Ⅰ 原 聖（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（木曜２限）少数言語と言語政策

授業の目標・内容・計画

EU はその発足以来、多言語主義を貫いている。このなかでとくに重視されているのが、少数言語にたいする言語政策である。それはほかの地域にとっても模範とすべきものだが、国ごとに実情が異なるのもまた事実である。このあたりの事情を比較し、模範とすべき多言語主義的言語政策を展望することにしたい。

教材・参考書等

欧州社会言語学関係の年報 Sociolinguistica の特集号（第１６号、２００２年、「言語政策と少数言語」）を用いる。部分的にプリントで配布するので、必ずしも買う必要はない。

成績評価の方法

一度以上口頭報告を行い、なおかつレポートを作成することが単位認定の前提となる。

履修上の注意

十分な予習、積極的な報告を期待する。

（２学期）

（木曜２限）多言語社会史

授業の目標・内容・計画

ヨーロッパでは、多言語主義を貫くために、多言語的ヨーロッパを歴史的にさかのぼる試みが行われている。これに関するたいへん刺激的な最近の論集をとりあげ、多言語的ヨーロッパ社会史研究の現状を把握する。

教材・参考書等

Braumüller, Kurt; Ferraresi, Gisella (eds.), Aspects of Multilingualism in European Language History, Amsterdam, Benjamins, 2003. 部分的にプリントで配布するので、必ずしも買う必要はない。

成績評価の方法

一度以上口頭報告を行い、なおかつレポートを作成することが単位認定の前提となる。

履修上の注意

十分な予習、積極的な報告を期待する。

○言語学研究Ⅰ 後藤 斉（１学期開講）

（集中講義）国際語論

授業の目標・内容・計画

計画言語であるエスペラントについて、その言語的特徴を概観した上で、日常的な文章が読解できるようになることを目標とする。

あわせて、エスペラントの成立事情と使用状況の概略およびその意義を、その使用者たちの抱く種々の思想や第三者の評価をもとに考察する。

教材・参考書等

教科書：小林司ほか『４時間で覚える地球語エスペラント』白水社、1995.

辞書：三宅史平『エスペラント小辞典』大学書林、1965.

ほか、資料を配布する。参考書は教室で指示する。

成績評価の方法

授業時間内に行う試験と出席状況により、総合的に評価する。

履修上の注意

特になし。

○言語学研究Ⅱ 志賀 雪湖（通年開講）

（木曜2限）アイヌ文化

授業の目標・内容・計画

映像資料や音声資料を使ってアイヌ文化の紹介をする。アイヌ民族をとりまく現状やアイヌ語復興への試みも紹介する。アイヌ語の資料も扱うので、文法については簡単に解説する。アイヌ語の語順は日本語とほとんど同じであるが、動詞や名詞に人称を表示するなど日本語にはない特徴がある。

夏休み前は多くの資料にあたることでアイヌに関する知識を広め、質疑応答することで、知識を深めていこうと思う。夏休み明けは、それまでに得た知識をもとに各自興味のあるテーマについて考察、順次発表する。

教材・参考書等

プリント配布。参考書については随時紹介する。

成績評価の方法

授業への参加度（質疑応答）と、レポート発表等で判定する。

履修上の注意

○言語学研究Ⅱ 箕浦 信勝（通年開講）

（火曜4限）個別言語の文法記述研究

授業の目標・内容・計画

この授業では、先行論文を読むことと、講義により、一般言語学・言語類型論上の一定の概念を共有し、それを各人の専攻言語あるいはその他特定の一言語に引き寄せてみることにより考察を深める。本年度は、FSP（functional sentence perspective、機能的文展望、現実区分、実情分析、テーマ・レーマ）、特に wh 疑問文の FSP および付加語句の FSP から始めたいが、集まった顔ぶれにより、講義と発表の割合、発表の回数などは増減する。

教材・参考書等

日本語・英語等で、適宜準備する。

成績評価の方法

授業参加の積極性、発表、レポート等により総合的に評価する。

履修上の注意

講義と受講者の発表を組み合わせで進める。

○言語学研究Ⅱ 原 大介（2学期開講）

（集中講義）手話学研究

授業の目標・内容・計画

【目標】アメリカ手話・日本手話（主に前者）に関する音韻論研究、形態論研究、統語論研究、神経言語学的研究（手話失語）を概観し、手話言語の言語的特徴を理解する。講義では、日本手話を取り巻く言語的・文化的背景についても学習する。

【内容・計画】

1. 手話とはどのような言語か

手話は世界共通か

手話はいつできたのか

手話はだれが作ったのか

2. 手話音韻論
手話の音素
Stokoe の Chereme モデル
MH モデル・HT モデル概観
3. 手話形態論
手話の形態素
動詞の種類
分類辞
4. 手話統語論
手話の語順
非手指記号
5. 手話と失語症
手話と左脳
手話と右脳
6. トピックス（時間の許す範囲で最新の研究成果を紹介）g プリントを配布する。

教材・参考書等

教材・参考書等は追って連絡する。また、講義の際、適宜、プリントを配布する。

成績評価の方法

講義最終日に筆記による試験を実施し、その得点にもとづいて評価する。

履修上の注意

日本手話を語学として学習する科目ではない。受講に際し手話の知識・経験の有無を問わない。

○言語学研究Ⅲ 富盛 伸夫（通年開講）

（1 学期）

（金曜 2 限）テキストの言語学 1

授業の目標・内容・計画

これまでの構造主義的あるいは生成文法的な観点からの言語理論では、分析対象としては文以上のレベルを排除あるいは回避して研究対象を限定してきた。しかしながら、談話・テキストの枠組みを考慮に入れないと下位レベルの言語単位の機能・価値は同定できないであろう。本講義では、言語学・文献学・文学研究の交叉する原点であるテキスト構造の分析に理論と実践の両側面から取り組んでゆきたい。

文学テキストや物語論の分野など言語学専攻以外の受講者も歓迎する。

・前期ではソシュールに始まる記号学をテキスト・談話レベルに適用しつつ、最近のテキスト言語学の動向を学ぶとともに具体的研究への準備をする。

・現代人文科学の方法論的基盤を築いた言語学者 Ferdinand de Saussure の言語理論、とりわけ記号学／記号論の解説を出発点に、構造主義的方法の成果を現時点で検証する。とくにソシュール理論における記号の概念、体系の概念を原資料に基づいて再検討する。

・考察対象とする記号単位を文以上のレベルに求め、テキスト／ディスコースを発話機能の観点から分析する。

教材・参考書等

参考文献・資料は授業中に適宜指示する。

成績評価の方法

授業への参加、及びレポート・研究発表にもとづく評価をする。

履修上の注意

（2 学期）

（金曜 2 限）テキストの言語学 2

授業の目標・内容・計画

これまでの構造主義的あるいは記述的な観点からの言語理論では、分析対象としては文以上のレベルを排除あるいは回避して研究対象を限定してきた。しかしながら、談話・テキストの枠組みを考慮に入れないと下位レベルの言語単位の機能・価値は同定できないであろう。本講義では、言語学・文献学・文学研究の交叉する原点であるテキスト構造の分析に理論と実践の両側面から取り組んでゆきたい。

文学テキストや物語論の分野など言語学専攻以外の受講者も歓迎する。

・後期では前期で学んだ記号論、テキスト言語学の成果を基礎に、参加者各自が設定した研究対象を具体的なケーススタディーとして討論してゆく。

・具体的な分析対象を日常的言語から文学テキストまで広げ、言語学的手法と文学研究の橋渡しをしてゆきたい。

H. Weinrich, D. Maingueneauらによるテキスト言語学的手法により多様な素材のテキスト分析を試み、テキストを構成する文法標識の分析からナラトロジーへの展開を図る。

(2004年度は、「プロジェクトXの表現形式」、「芥川の物語空間の研究」、「カストロの演説分析」などを取り扱った。)

・必要に応じて、分析のためのコーパスの作成方法、コンコーダンス作成と利用法など、パソコンを用いた言語情報処理の実践をする。

教材・参考書等

参考文献・資料は授業中に適宜指示する。

成績評価の方法

授業への参加、及びレポート・研究発表にもとづく評価をする。

履修上の注意

○言語学研究ⅡⅡ 宗宮 喜代子（通年開講）

（金曜5限）認知言語学を読む

授業の目標・内容・計画

認知言語学への理解を深めると同時に、独自の観点から批評し建設的援用の可能性を探る。授業中は担当者を決めて数本の論文を読む。論文の例：

John. Taylor. “On construing the world.”

Ronald W. Langacker. “Possession and possessive constructions.”

René Dirven. “The construal of cause: The case of cause prepositions.”

Bernd Heine. “Conceptual grammaticalization and prediction.”

Dirk Geeraerts. “Looking back at anger: Cultural traditions and metaphorical patterns.”

Zoltán Kövecses. “Anger: Its language, conceptualization, and physiology in the light of cross-cultural evidence.”

Olaf Jäkel. “The metaphorical conception of mind: ‘Mental activity is manipulation.’”

論文は、受講者の希望に応じて選択する。

教材・参考書等

John Taylor et al. (eds.) 1995. *Language and the Cognitive Construal of the World*. New York: Mouton de Gruyter.

成績評価の方法

授業への参加と貢献の度合い、レポートなどから総合的に評価する。

履修上の注意

全回出席を原則とする。

授業中は積極的に発言して下さい。

○言語学研究Ⅳ 佐野 洋（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（月曜３限）計算言語研究論Ⅰ １

授業の目標・内容・計画

コンピュータを使った計算言語研究の方法を学び、各人でことばの問題点を確認し、分析方法の検討した上でことばの分析を実践します。多言語対応のテキスト検索プログラムを用意します。そのツールを利用して分析をします。前期は、各人毎に問題を決め、参考図書や文献を参照して、その問題を計量的に取り扱えるように議論しモデルを組み立てます(報告と発表を通じて行います)。

教材・参考書等

『英語コーパス言語学—基礎と実践』、『コンピュータ・コーパス利用による現代英米語法研究』、『WindowsPCによる日本語研究法』, "WORDS AND PHRASES: CORPUS STUDIES OF LEXICAL SEMANTICS", "CORPUS LINGUISTICS", "Programming for Corpus Linguistics"

成績評価の方法

担当レポート内容と授業への参加の程度

履修上の注意

各人毎に問題を決め、その問題について報告を行い内容について議論します。授業への積極的な参加を求めます。

（２学期）

（月曜３限）計算言語研究論Ⅰ ２

授業の目標・内容・計画

コンピュータを使った計算言語研究の方法を学び、各人でことばの問題点を確認し、分析方法の検討した上でことばの分析を実践します。多言語対応のテキスト検索プログラムを用意します。そのツールを利用して分析をします。後期は、各人毎の問題を、前期で組み立てたモデルをコンピュータを使って実証します(実習及び報告と発表を通じて行います)。

教材・参考書等

『英語コーパス言語学—基礎と実践』、『コンピュータ・コーパス利用による現代英米語法研究』、『WindowsPCによる日本語研究法』, "WORDS AND PHRASES: CORPUS STUDIES OF LEXICAL SEMANTICS", "CORPUS LINGUISTICS", "Programming for Corpus Linguistics"

成績評価の方法

担当レポート内容と授業への参加の程度。

履修上の注意

各人毎に問題を決め、その問題について報告を行い内容について議論します。授業への積極的な参加を求めます。

○言語学研究Ⅳ 峰岸 真琴（１学期開講）

（火曜３限）文法記述と言語類型論

授業の目標・内容・計画

言語の研究においては、個別言語に関する深い知識とともに、諸言語を超えた原理を通言語的に見渡す広い視野との両面が必要である。例えば、日本語がアジアの言語のひとつである、という視野に立つことで、個別現象を超えた深い洞察が可能になるであろう。

本講は世界の諸言語において、文法の基本的概念が、どのような言語事実に基づいて定義されているかを、通言語的に考察することを目標とする。

今年度は手がかりとして、専攻語の名詞および動詞を中心とした構造についての発表を、各受講者にしてもらい、その結果を地域的に比較することを通じ、以下のような諸概念を検討する予定である。

1. 形態素、語、句、文などの統語単位・領域、
2. 文法概念、
3. 述語成分、
4. モダリティ

教材・参考書等

コムリー1992『言語普遍性と言語類型論』, 角田太作『世界の諸言語と日本語』を基本とし, テーマに応じて, 和文, 英文のプリントを用意する。

成績評価の方法

受講者の専攻言語について, 上記概念の具体的な定義についての発表およびレポートを求め, 評価を行う。発表に対するコメント, 質問の積極性も評価の対象とする。

履修上の注意

講義と受講者の発表の組み合わせで進行するため, 出席を重視する。初回は講義内容, 方針, 場所の打合せをするため, 必ず AA 研棟 6 階 607 号室 (峰岸研究室) に集合のこと。講義は AA 研棟で行う。

○言語学演習 土肥 一夫 (通年開講)

(火曜 2 限) 辞書学 (phrase の研究)

授業の目標・内容・計画

現代の辞書に関連し、記述において注目を集めている (広義での) phrase に関する著作を前期において購読する予定です。そして後期では関連した著作または論文を読む予定とします。

参加者は、各個別言語の辞書の (過去および) 現在を検討しながら、今後の記述のあり方に関心を持ってもらいたい。

予定テキスト (前期)

A.P. Cowie

Phraseology: Theory, Analysis, and Applications

(Clarendon Press, 1998)

教材・参考書等

教材は担当者がコピーを準備する予定です。

参考図書等は必要に応じ指示します。

成績評価の方法

授業での担当発表、プレゼンテーション、レポートにより評価します。

履修上の注意

履修理由と参加意識が明確な学生を歓迎します。参加者の準備と積極的な議論がないと、退屈に感じると思います。また単位のためだけに履修すると、途中でドロップアウトする原因となる可能性が高いので、十分に自覚して履修してください。

○言語学演習 野村 恵造 (通年開講)

(金曜 3 限) 英語語用論

授業の目標・内容・計画

前期は概論書を読みながら、語用論が取り扱う基本的な概念を解説する。後期の前半は、対照語用論や中間言語語用論などの特定のテーマに関わる論文をいくつか読み、後半は、各自が関心を持ったテーマについての研究発表を中心に授業を行う。

教材・参考書等

プリント使用。なお、基本文献のリストは初回に配布する。

成績評価の方法

授業中の発表、議論への参加および期末のレポートを総合的に評価する。

履修上の注意

英語専攻の指定はしないが、一定程度の英語の読解力が必要である。

○対照言語学演習 野間 秀樹（１学期開講・２学期開講）

○対照言語学演習 伊藤 英人（１学期開講・２学期開講）

（火曜４限）

（１学期）韓日対照言語学演習Ⅰ

（２学期）韓日対照言語学演習Ⅱ

授業の目標・内容・計画

日韓対照言語学に関する論文を書くための研討の場です。

参加者各自が論文発表を行い、参加者がそれに対する討論を加える形を取ります。

大学院・学部の教官五名、博士前期後期の学生、研究生が討論に参加します。

教材・参考書等

発表論文を発表の前週までに参加者に配布します。

成績評価の方法

授業への参加及び論文の内容によります。

履修上の注意

○対照言語学演習 南 潤珍（１学期開講・２学期開講）

（火曜３限）日韓対照言語学演習ⅢⅠ・Ⅱ

授業の目標・内容・計画

日本語と韓国語の対照言語学的研究に関する訓練を積み重ねる。各自の研究を発表し、相互の討論を重ねる。

広い学問的関心の上に立って論文を書く訓練を志向する。

教材・参考書等

プリントを配布。

成績評価の方法

各自の発表、授業への参加度などを総合的に評価。

履修上の注意

原則的には韓国語で討論が行われる。韓国語文献の読解能力のみならず、韓国語によって討論を行う訓練も要求される。

○音声学研究 益子 幸江（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（月曜３限）音声科学研究Ⅰ

授業の目標・内容・計画

IPA（国際音声字母）の発音・聞き取り訓練を行う。人間の言語音を研究対象とするにあたっては、産出される音声と音声器官の動きとの関連を把握していることが必要である。自分自身の音声器官の動きを内省することによってこれを達成する。

訓練の主な項目は以下のとおり。

1. 調音器官を内省する
2. 子音の調音法（破裂音）
3. 子音の調音法（鼻音、ふるえ音、はじき音）
4. 子音の調音法（摩擦音）

5. 子音の調音法（接近音、側面音）
6. 子音の調音法（非肺気流による）
7. 母音の調音（基本母音の練習）
8. 音連続の聞き取り練習

教材・参考書等

授業中に指示する。

成績評価の方法

毎回の授業参加度および試験で総合評価する。

履修上の注意

学部の音声学概論程度の知識を前提とする。留学生の場合は訓練時の指示が理解できる日本語力が必要。授業は訓練なので、毎回出席すること。個別の補講は行わない。

人数を制限する必要がある場合があるので、第1回目の授業には必ず出席すること。なお、最初の授業では小テスト（必要な知識の確認）を行う。

（2学期）

（月曜3限）音声科学研究2

授業の目標・内容・計画

第二言語学習時に必要な音声教材を試作することを通して、人間の言語活動の中での音声の役割を考えると同時に、音声の分析・処理について学ぶ。

具体的な内容としては以下の通り。

1. 音声教育上問題となる点を取り上げる。
2. 音声資料の収集・分析を行う。
3. 分析結果について考察を行い、それについて口頭発表する。
4. 音声教材をデザインし、試作をプレゼンテーションする。
5. 論文形式にまとめる。

教材・参考書等

授業中に指示する。

成績評価の方法

毎回の授業参加度および口頭発表と提出物で総合評価する。

履修上の注意

学部の音声学概論程度の知識を前提とし、1学期開講の音声科学研究1を履修済みであること。また、学部の音声学講義（実験音声学）程度の知識を持っていることが望ましい。

最初の授業では知識と技能を確認するために小テストを行うので、必ず出席すること。

○音声学研究 中川 裕（1学期開講・2学期開講）

（1学期）

（火曜4限）音声学と音韻論（1）

授業の目標・内容・計画

音声学・音韻論に関連する研究を行っている学生を対象に、音声学的観察の技能や音声資料分析方法、音韻論的基礎概念に関わる総復習を行いながら、それらが自分たちの研究にどのように関連するか、またどのように役立つかを探究する。期待される受講者の研究分野は、音声学、音韻論、歴史的音韻論、発音教育などである。修論で扱わなくともこれらの分野に強い関心があれば参加を歓迎する。

教材・参考書等

授業中に指示する。

成績評価の方法

成績評価の方法：出席とレポートにより評価する。

履修上の注意

履修上の注意：音声資料分析の基礎知識に自信のない受講者は、学部授業の言語記述理論（演習）「音声学・音韻論演習」を同時履修するのが望ましい。また、音韻論の理解に自信のない受講者は、言語記述理論（講義）「音声学・音韻論講義」を同時履修するのが望ましい。履修に必要な基礎知識がいかなるものかについては、第1回目の授業で説明する。

（2学期）

（火曜4限）音声学と音韻論（2）

授業の目標・内容・計画

1学期の音声学研究「音声学と音韻論（1）」をふまえて、受講者が各自の研究の一部を発表し、それに基づく議論を行う。

教材・参考書等

受講者に個別的に指示する。

成績評価の方法

出席とレポートにより評価する。

履修上の注意

1学期に音声学研究「音声学と音韻論（1）」を履修していることを前提とする。なるべく欠席しないこと。

○外国語教授法研究 根岸 雅史（1学期開講・2学期開講）

（1学期）

（金曜2限）外国語教授法研究：言語テスト論

授業の目標・内容・計画

この授業では、まず外国語教育において用いられる言語テストについての基本的な知識を得ることを目指す。内容は、以下の通り。

1. 言語テストに関する文献を講読。
2. 文献の内容に沿って、参加者各自がテストを作成する。

教材・参考書等

Testing for Language Teachers. 2nd edition (Cambridge University Press) Arthur Hughes. 2003.

成績評価の方法

レポート、テスト、授業への貢献度、出席等による。

履修上の注意

外国語教育学または応用言語学を専門領域としていることを前提とする。

（2学期）

（金曜2限）外国語教育学研究：リーディング研究

授業の目標・内容・計画

この授業では、まず英語のリーディング理論の基本的な研究成果の習得を目指す。さらに、その研究成果の指導や評価への応用について考察する。内容は、以下の通り。

1. 英語リーディングに関する文献を講読。
2. 実際の指導と評価への応用について議論。

教材・参考書等

授業中に適宜指示する。

成績評価の方法

レポート、テスト、授業への貢献度、出席等による。

履修上の注意

外国語教育学または応用言語学を専門領域としていることを前提とする。

○外国語教授法研究 吉富 朝子（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（木曜 4 限）第二言語習得研究 I

授業の目標・内容・計画

応用言語学、特に第二言語習得と外国語教育に関する専門知識を深めることを目標とする。テキストを受講生の口頭発表による演習形式で読解・考察していく。

テキストは第二言語習得研究成果をいかに外国語指導に応用できるかについて考察した概説書である。テキストの前半(Part I)では、第二言語教育・外国語教育の現状、および近年の第二言語習得研究の傾向について概観し、指導の現場にいる教師が第二言語習得研究に求める情報とはどのようなものかが整理されている。また後半(Part II)では、第二言語習得研究の成果と外国語教授法の変遷を概観した後、第二言語習得研究の中でも、態度と動機づけ、語彙及び 4 スキルズに関する研究成果と、その言語指導への示唆がまとめられている。

期末課題は受講生の選択したテーマについての literature review を主としたレポートを予定している。詳細については第一回目の授業で説明するので必ず出席すること。

教材・参考書等

[教科書] Macaro, Ernesto (2003). *Teaching and Learning a Second Language: A Guide to Recent Research and its Applications*. Continuum Books.

[参考書] Gass, S. M. & Selinker, L. (2001). *Second Language Acquisition: An Introductory Course, 2nd Edition*. Lawrence Erlbaum Associates.

成績評価の方法

出席、授業への積極的参加、口頭発表、および期末レポートにより総合的に評価する。

履修上の注意

1 学期のみの履修可。言語学および応用言語学についての基礎的な専門知識があることを前提とする。特に応用言語学関連の授業をまったく履修したことがない者は、学部の応用言語学の講義を聴講した後、この授業を履修することが望ましい。英文の専門文献を読解・要約できるだけの英語力があることも前提である。

（2 学期）

（木曜 4 限）第二言語習得研究 II

授業の目標・内容・計画

応用言語学、特に第二言語習得と外国語教育に関する専門知識を深めることを目標とする。テキストを受講生の口頭発表による演習形式で読解・考察していく。テキストは第二言語習得研究の中でも学習者の個人差に関する研究成果を紹介し、いかに個人差を考慮した言語指導を行なうべきかを考察した論文集である。テキスト前半では理論的枠組みが、後半では実証的研究成果が示されている。掲載論文例は以下の通り：

1. The theory of successful intelligence and its implications for language aptitude testing
2. Motivation, anxiety and emotion in second language acquisition
3. The role of learners' language analytic ability in the communicative classroom
4. Individual differences in working memory, noticing of interactional feedback and L2 development
5. Age, aptitude and second language learning on a bilingual exchange

期末課題は受講生の選択したテーマについての literature review を主としたレポートを予定している。詳細については第一回目の授業で説明するので必ず出席すること。

教材・参考書等

[教科書] Robinson, Peter (Ed.) (2002). *Individual Differences and Instructed Language Learning*. John Benjamins.

[参考書] Gass, S. M. & Selinker, L. (2001). *Second Language Acquisition: An Introductory Course, 2nd Edition*. Lawrence Erlbaum Associates.

成績評価の方法

出席、授業への積極的参加、口頭発表、および期末レポートにより総合的に評価する。

履修上の注意

2 学期のみの履修可。その他の注意は 1 学期と同様。

○外国語教授法研究 Mark Peterson (1 学期開講・2 学期開講)

(1 学期)

(木曜 2 限) Computer Assisted Language Learning 1

授業の目標・内容・計画

The course will function as an introduction to the area of computer assisted language learning (CALL).

教材・参考書等

Background reading: Students preparing to take this course should read the following article:

Computers and Language Learning: An overview.

Online article by Mark Warschauer. Available at the following URL:

<http://www.gse.uci.edu/markw/overview.html>

Course materials: There is no set textbook for this course. When required, lessons materials will be provided by the teacher.

Course web site: Students seeking further information relevant to this course should consult the following web site: <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/mphome/postgrad.html>

成績評価の方法

Attendance Policy: Students are required to attend all classes.

Assessment: There are no examinations in this course.

Assessment will be based on attendance, attitude and completion of various term time tasks. At the end of this course students will be required to submit an end of term paper.

履修上の注意

User name and password: All students wishing to participate in this class are required to obtain a user name and password from the University.

Floppy disc: Students are required to bring a windows floppy disc to all classes.

(2 学期)

(木曜 2 限) Computer Assisted Language Learning 2

授業の目標・内容・計画

In this course students will have the opportunity to explore selected theoretical and pedagogical issues in CALL.

教材・参考書等

Background reading: Levy, Michel. *Computer Assisted Language Learning: Concept and Conceptualization*. Oxford University Press: Oxford.

Course materials: There is no set textbook for this course. When required, lessons materials will be provided by the teacher.

Course web site: Students seeking further information relevant to this course should consult the following web site:

<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/mphome/postgrad.html>

成績評価の方法

Attendance Policy: Students are required to attend all classes.

Assessment: There are no examinations in this course.

Assessment will be based on attendance, attitude and completion of various term time tasks. At the end of this course students will be required to submit an end of term paper.

履修上の注意

This course is open only to students who have completed Computer Assisted Language Learning 1. User name and password: All students wishing to participate in this class are required to obtain a user name and password from the University.

Floppy disc: Students are required to bring a windows floppy disc to all classes.

○認知科学論研究 佐藤 大和（通年開講）

（木曜 5 限）ことばの科学と技術（音声言語情報処理論）

授業の目標・内容・計画

人間の行っている言葉の生成や認識に関して、言語学的、音声学的、音響学的諸性質を総合的かつ学際的に学ぶ。言語事象を、文系のおよび理系的な側面からアプローチし、理解する。また、大規模な言語文化資産の体系化の現状に関して学ぶ。

- （１）言葉の機能
- （２）言葉のもつ情報を計る（統計的な性質）
- （３）言葉の構造と規則（日本語アクセント、リズム等の韻律的側面を素材として）
- （４）音響（波）としての言葉の性質
- （５）言葉が作り出されるプロセスと知覚・認知のモデル
- （６）コンピュータによる言葉の合成の仕組み
- （７）大規模な言語知識資源の体系化の試み

教材・参考書等

教材（教科書）は用いない。参考書は紹介する。

成績評価の方法

出席点とレポート提出。

履修上の注意

特になし。

○情報処理論研究 市川 雅教（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（火曜 3 限）統計学研究（１）

授業の目標・内容・計画

教科書を講読し、修論に必要とされる程度の統計的方法の基礎を学ぶ。統計プログラムパッケージ SPSS の出力の見方についても学ぶ。

教材・参考書等

教科書：南風原朝和「心理統計学の基礎」有斐閣

成績評価の方法

レポート、出席状況、発表内容、小テストなどにより評価する。

履修上の注意

２年次では修論に間に合わないので、１年次に履修することが望ましい。統計学の初心者は、それなりの自習が必要とされる。

（２学期）

（火曜 3 限）統計学研究（２）

授業の目標・内容・計画

教科書を講読し、修論に必要とされる程度の統計的方法の基礎を学ぶ。統計プログラムパッケージ SPSS の出力の見方についても学ぶ。

教材・参考書等

教科書：南風原朝和「心理統計学の基礎」有斐閣

成績評価の方法

レポート、出席状況、発表内容、小テストなどにより評価する。

履修上の注意

2 年次では修論に間に合わないので、1 年次に履修することが望ましい。統計学の初心者には、それなりの自習が必要とされる

○情報処理論研究 芝野 耕司（通年開講）

（月曜4限）コンパイラ

授業の目標・内容・計画

言語情報処理の基本は、プログラム言語の実現であるコンパイラにある。この授業では、コンパイラの実装技術を学ぶとともに、実際に、小さなプログラム言語のコンパイラを作成することによって、理論だけではなく、実践としての言語情報処理を学ぶことを目指す。

毎回発表者担当者を決め、担当者の発表を中心に授業を行う。

教材・参考書等

B. W. Kernighan, R. Pike 著，石田晴久監訳，「UNIX プログラミング環境」，アスキー出版局

A. W. Appel 著，Modern Compiler Construction in Java, Cambridge University Press

その他の参考書については、その都度指示する。

成績評価の方法

授業中の発表内容で評価する。

履修上の注意

○情報処理論研究 芝野 耕司（通年開講）

（火5限）インターネット基盤技術

授業の目標・内容・計画

この講義では、インターネットを利用する上での基礎となる技術を扱う。

まず、(1) 計算機の基本的な仕組みを述べた後、計算機上での様々な情報の表現について検討する。次いで、(2) 文字情報の取り扱いを ISO/JIS での文字コード(符号化文字集合)体系を中心に検討する。その後、(3) インターネットの通信規約であるプロトコル体系について検討し、(4) マルチメディア文書の取り扱い及びそのデータベース化について検討する。

- (1) まず、計算機の基本的な仕組みについて述べる。現在の計算機の方式を前提に、数値、文字、画像、音声などを計算機上でどのように表現するかを検討する。
- (2) インターネットは日常生活においても、研究生活においても欠かせないものとなっている。この講義では、インターネットの基本プロトコルである TCP/IP のプロトコル体系とその動作について述べる。また、応用層のプロトコルである電子メール、WWW などの仕組みと実際の動作についても検討する。
- (3) インターネットの WWW の普及によって電子文書形式として HTML が広く使われるようになった。この HTML は、SGML (標準一般化マーク付け言語) の一つの応用として捉えられる。ここでは、SGML を HTML との関連において検討するとともに、XML/HTML の体系についても検討する。また、マルチメディアデータベースである SQL/MM に関しても、最新の動向も含めてマルチメディア情報のデータベース化の技術動向を検討する。
- (4) 文字コードについては、ISO/JIS での体系を全体として検討する。ISO/JIS での文字コードは、1967 年に制定した 6 ビット及び 7 ビットの符号化文字集合を規定する ISO R 646 に始まり、制御機能 JIS X 0211 (ISO/IEC 6429)、符号拡張法 JIS X 0202 (ISO/IEC 2022) 及び符号化文字集合の国際登録簿 ISO/IEC 2375 からなる 7 ビット及び 8 ビットの体系と JIS X 0221 (ISO/IEC 10646) の 16 ビットの体系とからなる。ここでは、これらの符号化文字集合体系を体系として検討することによって、文字の符号化について検討する。日常国内で用いる漢字コードは、これら国際規格体系に対応したものであり、ここでは、規格仕様の体系の一部として漢字コ

ードを捉え、漢字固有の問題についても検討する。

主として英文の原典資料を教材として用い、毎回発表担当者を決め、担当者の発表を中心に授業を行う。

教材・参考書等

芝野耕司編著、JIS 漢字字典、日本規格協会、1997 年 11 月、4800 円

芝野耕司著、インターネットがわかる本、オーム社、2001 年 1 月、1500 円

芝野耕司著、SGML/XML がわかる本、オーム社、2000 年 5 月、1500 円

また、インターネット標準の原典資料をもとに講義を行う。講義資料はその都度配布する。

成績評価の方法

授業中の発表内容で評価する。

履修上の注意

○情報処理論研究 町田 和彦（通年開講）

（月曜 4 限）テキスト処理

授業の目標・内容・計画

文字資料をコンピュータで処理する際の具体的な問題とその解決方法を、実習をとおして考える。

予定しているテーマは以下のとおり。

1. 言語と文字
2. WYSIWYG と ML について
3. 文字とコード
4. テキストとタグ
5. 検索と置換
6. ソーティング

教材・参考書等

必要なファイル、教材は教室で配布する。

成績評価の方法

出席、課題への取り組み姿勢を重視する。

履修上の注意

コンピュータの特別な知識は必要としないが、一般的な操作(Windows XP)に慣れていることが望ましい。出席を重視。

○情報処理論研究 望月 源（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（月曜 4 限）言語処理方法論 I

授業の目標・内容・計画

目標は以下の 2 点。

1. 「ことば」をコンピュータで処理するために必要なプログラミング上の知識を習得する。
スクリプト言語 Perl を用いて、連続、反復、条件分岐などの制御構造の基本や、変数、配列などのデータ構造と操作、ファイル操作および文字列マッチング処理などの学習を通じ、主にテキスト処理に役に立つプログラムの作成能力をつける。
2. 「ことば」をコンピュータで処理するために行われる言語処理技術の基本的知識を身につける。
特に、基礎的な解析である形態素解析、構文解析、意味解析に重点をおいて講義を行う

教材・参考書等

「Perl トレーニングブック」、平田豊、ソーテック社、ISBN4-88166-371-2

「新 Perl の国へようこそ」、斎藤 靖・小山裕司・前田 薫・布施有人、サイエンス社、ISBN4-7819-0795-4

「自然言語処理」，長尾真編，岩波書店，ISBN4-00-010355-5

その他，授業中に指示する。

成績評価の方法

授業への出席、参加状況およびレポートにより総合的に評価する。

履修上の注意

最初の講義に必ず出席すること。コンピュータ教室で授業を行うので，情報処理センターの利用者アカウントを取得していないものは取得すること。

（2学期）

（月曜4限）言語処理方法論 II

授業の目標・内容・計画

目標は以下の2点。

1. テキスト処理や WWW での処理などの応用的なプログラミングについて学習する。
プログラミング言語は Perl, JavaScript 等を用いる。
2. 「ことば」をコンピュータで処理するために行われる言語処理技術の基本的知識を身につける。
文脈解析，機械翻訳，情報検索，自動要約作成，言語生成などの応用研究に重点をおいて講義を行う。

教材・参考書等

「Perl トレーニングブック」，平田豊，ソーテック社，ISBN4-88166-371-2

「新 Perl の国へようこそ」，斎藤 靖・小山裕司・前田 薫・布施有人，サイエンス社，ISBN4-7819-0795-4

「自然言語処理」，長尾真編，岩波書店，ISBN4-00-010355-5

その他，授業中に指示する。

成績評価の方法

授業への出席、参加状況，発表内容およびレポートにより総合的に評価する。

履修上の注意

最初の講義に必ず出席すること。「言語処理方法論 I」もしくは，「自然言語処理概論」を履修済み，もしくは，コンピュータ言語，特に Perl について基礎的な知識があること。

○比較文学研究 李 孝徳（1 学期開講・2 学期開講）

（月曜2限）ポストコロニアリズムと文学1・2

授業の目標・内容・計画

ポストコロニアル批評について具体的な文学作品を通じて学ぶ。

教材・参考書等

Ania Loomba, *Colonialism/Postcolonialism*, Routledge, 1998.

Paul Gilroy, *The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness*, Harvard Univ. Press, 1993.

他は開講時に指示。

成績評価の方法

レポート、発表、ディスカッションなどの総合評価。

履修上の注意

最初の時間に授業の進め方、発表の割り当てなどのガイダンスを行うので，履修希望者は必ず参加のこと。

○西洋古典文学研究 岩崎 務（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（火曜2限）ホメロス研究

授業の目標・内容・計画

『イリアス』を中心としてホメロスの叙事詩を様々な角度から検討する。『イリアス』を翻訳で読むとともに、

歴史的・文化的背景との関係、他の叙事詩や悲劇のような他ジャンルの作品との関係、口承詩の伝統や神話伝承における位置など、多方面から『イリアス』について論じた英文の研究論文やエッセーを輪読・議論することによって、最近のホメロス研究について理解を深める。

教材・参考書等

ホメロス『イリアス(上)(下)』(松平千秋訳、岩波文庫)(各自で入手すること。)

D. L. Cairns (ed.), *Oxford Readings in Homer's Iliad*. Oxford University Press, 2001. (プリントを配布する。)

成績評価の方法

レポート、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

履修上の注意

(2 学期)

(火曜 2 限) ローマ恋愛詩研究

授業の目標・内容・計画

2 学期は、ローマの恋愛エレゲイア詩を取り上げる。現代文学理論におけるテキスト概念に基づいて、ティブッルス、プロペルティウス、およびオウィディウスの作品を分析し、恋愛詩に対する新しいアプローチを示した Kennedy の論考を輪読することによって、新しい読みの可能性について検討する。

教材・参考書等

『ローマ恋愛詩人集』(中山恒夫編訳、国文社)

D. F. Kennedy, *The Arts of Love: Five Studies in the Discourse of Roman Love Elegy*. Cambridge University Press, 1993. (プリントを配布する。)

成績評価の方法

レポート、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

履修上の注意

○文化人類学研究 栗田 博之(1 学期開講・2 学期開講)

(1 学期)

(火曜 2 限) 文化人類学理論研究 I

授業の目標・内容・計画

英語論文の購読を通して、現代文化人類学理論の方法論的検討を行う。

教材・参考書等

最初の授業で指示する。

成績評価の方法

発表やディスカッションにより総合評価する。

(2 学期)

(火曜 2 限) 文化人類学理論研究 II

授業の目標・内容・計画

英語論文の購読を通して、現代文化人類学理論の方法論的検討を行う。

教材・参考書等

最初の授業で指示する。

成績評価の方法

発表やディスカッションにより総合評価する。

○文化人類学研究 中山 和芳（１学期開講・２学期開講）

（金曜５限）

（１学期）文化人類学Ⅰ

（２学期）文化人類学Ⅱ

授業の目標・内容・計画

西洋が異文化をどのように表象したかを、主としてオセアニアの事例を通して検討する。１学期は主として日本語文献を、２学期は英語文献を使用する。

教材・参考書等

最初の授業で指示する。

成績評価の方法

授業時の報告、討論への参加の様子により評価する。

履修上の注意

○人文地理学研究 杉浦 芳夫（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（火曜２限）変貌する日本の経済地誌

授業の目標・内容・計画

第二次世界大戦後半世紀が経つ中で、戦災復興、高度経済成長、オイルショック、バブル経済とその崩壊等を経験した日本社会は大きく変貌し、同時に首都・東京も大きな変容を遂げた。本講義では戦後日本の各地でみられる地域の変貌の様子について概説してみたい。たとえば、全国的人口移動、山村の過疎化、地域開発と公害、観光資本の全国的展開、支店経済、阪神・淡路大震災と復興まちづくり、斜陽都市の再生、ディズニー化する都市などである。

教材・参考書等

講義の中で指示する。

成績評価の方法

出席点と試験の成績で評価する。

履修上の注意

（２学期）

（火曜２限）東京の経済地誌

授業の目標・内容・計画

前期の講義内容を受け、本講義では、東京大都市圏における様々な地理的現象について概説してみたい。たとえば、自然環境と水問題、郊外の地域環境問題、東京の居住地域分化、ニュータウン建設、大型店の進出と商店街の衰退、下町の町工場、都心の空洞化、都心の人口回帰現象などである。

教材・参考書等

講義の中で指示する。

成績評価の方法

出席点と試験の成績で評価する。

履修上の注意

○思想文化論研究 吉本 秀之（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（月曜 4 限）安心・安全と自由の思想研究

授業の目標・内容・計画

21 世紀に入り、社会のいろんな側面で「安心・安全」を求める声が高くなっています。しかし、「安心・安全」のためにという口実で施行される事柄が、人間の自由を制限し、ひいては「安全・安心」という目標とは逆効果を生んでいるという悲しい状況があります。

この授業では、そうした事態のなかで第 1 に、社会の多くの場所に張り巡らされた監視技術と、人間の自由の相克の問題を取り上げます。第 2 に、食品の「安全・安心」問題を扱います。

教材・参考書等

東浩紀氏の『中央公論』（2002 年）における優れた連載論文「情報自由論」を手がかりに、レッシングの『CODE』や『コモンズ』、さらにはベック『危険社会』等々の、リスク論（安全論）、自由論、の基本的な文献を読んで行きます。（受講希望者は、東浩紀氏の連載論文に目を通して下さい。）

成績評価の方法

報告ならびにタームペーパー

履修上の注意

なお、より詳しくは、次のホームページをご覧ください。

<http://members.jcom.home.ne.jp/hide.yoshimoto/>

（2 学期）

（月曜 4 限）自己決定権の思想研究

授業の目標・内容・計画

移植医療、生殖医療、遺伝子解析・遺伝子組み換え研究という先端生命科学・生命技術は非常に大きく進展しています。我々のこれまでの生と死の境界線に変更を迫り、生殖のあり方にも変化を迫りつつあります。

そうした技術の採用には一見して明らかな倫理的問題がありますが、この分野の科学技術の進歩は、生命倫理の考察さえも補助輪となってしまう力強さがあります。

この種の先端技術の社会的受容の切り札とされるのは、憲法上は個別的には列挙されていない・比較的新しい「自己決定権」という概念です。

この分野の進展の状況をできるだけ正確に把握した上で、新しい「自己決定権」という概念のはらむ問題を考察していきます。

教材・参考書等

小松美彦『脳死・臓器移植の本当の話』（PHP 新書、2004）を出発点とします。

（受講希望者はこの本を自分で購入して、読んでおくこと。）

成績評価の方法

報告ならびにタームペーパー

履修上の注意

なお、より詳しくは、次のホームページをご覧ください。

<http://members.jcom.home.ne.jp/hide.yoshimoto/>

○国際文化論研究 今福 龍太（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（火曜 5 限）群島論 1

授業の目標・内容・計画

目的：

「群島」（Archipelago）のヴィジョンは、大陸的な論理によって稠密につくりあげられてきた従来の歴史観と社会構造から離脱して、人間の新たな生存原理を探求するための特権的なヴィジョンである。この、視点としての

「群島」は、むしろ現実の島の連なりだけを意味するものではない。しかし、なによりも現実の島嶼的な場を起点として誕生した思考や言葉が、そうした群島のヴィジョンをいちはやく示してきたこともまた確かである。地域・領土・国家といったテリトリ的（属領的）な仕組みから世界を見る思考から離れ、ネットワーク状に接続され、移動と交通のなかで浮上する実体として「世界」を再定義するために、群島に生まれ、群島状に散布された思考の航跡を、沖縄・奄美、太平洋諸島、カリブ海などを巡りながら概観する。

授業計画：

次にあげるテキスト（批評・民俗誌・小説・詩）を徹底的に読み込みながら「群島」の思想的系譜を辿る。前期は奄美・沖縄にかかわる重要な諸テキストを読む。群島論にかかわる理論的著作も併読する。

奄美・沖縄篇：谷川雁「びろう樹の下での死時計」、目取真俊「ブラジルおじいの酒」、崎山多美「ゆらていくゆらていく」、干刈あがた「島唄」、柳田国男「海上の道」、折口信夫「古代生活の研究―常世の国」、島尾敏雄「出発はついに訪れず」「島へ」、島尾敏雄「ヤポネシアと琉球弧」、島尾ミホ「その夜」「祭り裏」、高良勉「サンパギータ」、山之口貌「思辨の苑」、岡本太郎「何もないことの眩暈」、山尾三省「びろう葉帽子の下で」、柳宗悦「沖縄の冨」、伊波普猷「琉球人の祖先について」、ニコライ・ネフスキー「月と不死」等

理論篇：カール・シュミット「陸と海と」、ジャン＝フランソワ・リオタール「漂流の思想」、ミシェル・セール「五感」、ジル・ドゥルーズ「無人島」、エドワード・サイード「知識人とは何か」、マッシモ・カッチャーリ「群島」、アルフォンソ・リングス「危険な情動」他

教材・参考書等

読解するテキストはそのつど配付する。参考文献として、今福龍太『クレオール主義 増補版』（ちくま学芸文庫）。

成績評価の方法

討議への積極的参加、発表、期末レポートを総合して評価する。

履修上の注意

（2学期）

（火曜5限）群島論 2

授業の目標・内容・計画

目的：

「群島」(Archipelago) のヴィジョンは、大陸的な論理によって稠密につくりあげられてきた従来の歴史観と社会構造から離脱して、人間の新たな生存原理を探究するための特権的なヴィジョンである。この、視点としての「群島」は、むしろ現実の島の連なりだけを意味するものではない。しかし、なによりも現実の島嶼的な場を起点として誕生した思考や言葉が、そうした群島のヴィジョンをいちはやく示してきたこともまた確かである。地域・領土・国家といったテリトリ的（属領的）な仕組みから世界を見る思考から離れ、ネットワーク状に接続され、移動と交通のなかで浮上する実体として「世界」を再定義するために、群島に生まれ、群島状に散布された思考の航跡を、沖縄・奄美、太平洋諸島、カリブ海などを巡りながら概観する。

授業計画：

次にあげるテキスト（批評・民俗誌・小説・詩）を徹底的に読み込みながら「群島」の思想的系譜を辿る。後期はカリブ海のクレオール文化を象徴する基本的テキストの読解を中心に進める。群島論にかかわる理論的著作も併読する。

カリブ海篇：エドゥアール・グリッサン「〈関係〉の詩学」、エドウィッジ・ダンティカ「クリック？ クラック！」、アレホ・カルペンティエール「現実における驚異的なもの」、フランツ・ファノン「黒人の生体験」、ニコラス・ギリエン「ソンのモチーフ」、デレク・ウォルコット「真夏」、エメ・セゼール「帰郷ノート」、ジャマイカ・キンケイド「小さな場所」、ラファエル・コンフィアン他「クレオール札贅」、マリーズ・コンデ「肌の色、言葉の違いをこえて」、エドワード・ブラスウェイト「島々」、アール・ラヴレイス「ドラゴンは踊れない」他

理論篇：カール・シュミット「陸と海と」、ジャン＝フランソワ・リオタール「漂流の思想」、ミシェル・セール「五感」、ジル・ドゥルーズ「無人島」、エドワード・サイード「知識人とは何か」、マッシモ・カッチャーリ「群島」、アルフォンソ・リングス「危険な情動」他

教材・参考書等

読解するテキストはそのつど配付する。参考文献として、今福龍太『クレオール主義 増補版』（ちくま学芸文庫）。

成績評価の方法

討議への積極的参加、発表、期末レポートを総合して評価する。

履修上の注意

○国際文化論研究 金 載賢（1 学期開講）

（水曜 2 限）韓国近現代思想と日本

授業の目標・内容・計画

東アジア的視点から、日本が韓国の近現代思想に及んだ影響を考察し、それによって今日の日本と韓国の関係、韓国の思想的状況などを理解する。

教材・参考書等

必要に応じて講義中に指示する。

成績評価の方法

発表と討論参加によって総合的に評価する。

履修上の注意

○国際文化論研究 鬼木 雄二（2 学期開講）

（ ）アメリカ人の敗北者 － The American Loser

授業の目標・内容・計画

アメリカン・ドリームという成功物語の裏に存在するアメリカの「悪夢」とはなにか、敗北者の物語性を検討し、分析することがこのセミナーの基本テーマである。メイン・ストリームの価値観と異なるドロップアウト、アウトサイダー、また、マイノリティーの世界観を通して「異文化論」を論議する。なお、文学だけではなく、エッセイ、映画や音楽といった様々なメディアを通して議論を展開する。

教材・参考書等

「リブラ」ドン・デリーロ、「心臓を貫かれて」マイケル ギルモア、「華麗なるギャツビー」F.S.フィッツジェラルド、「道徳の系譜」ニーチェ、「欲望の現象学—文学の虚偽と真実」ルネ・ジラルール、「ヒップホップ・アメリカ」ネルソン・ジョージ、等。

成績評価の方法

レポート 40%、発表 30%、出席 30%

履修上の注意

なし。

○国際協力論研究 西谷 修（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（金曜 3 限）21 世紀世界論（1）

授業の目標・内容・計画

【目標】

21 世紀（9・11 以降の）世界の諸条件を適確に把握し考察するために必要な横断的・批判的知の構えを作る。

[内容と計画]

まず〈世界化〉の現状を理解するために、われわれの世界像や歴史観を規定している〈世界史〉の再検討を行う。歴史記述の内容ではなく、世界に関する知の自明の枠組みとなっている〈世界史〉を、象徴的制でないしはわれわれの知を支え方向付ける装置として検討する。世界史の概念、世界史的時間とキリスト教的終末論との関係、ヨーロッパという理念の形成、世界化の運動、近代性、世界戦争、世界性の現状、宗教と世俗化などがテーマとなる。

ついで、"ポスト冷戦"と"グローバル化"によって規定される 21 世紀世界で、9・11 以降浮かび上がった新しい世界秩序としての「テロとの戦争」の性格を検討し、そこで問題となる、国家、主権、法秩序、戦争、宗教と政治、などのテーマについて考える。

教材・参考書等

西谷修『「テロとの戦争」とは何か』（以文社）、西谷修

『世界史の臨界』（岩波書店）、『戦争論』（講談社学術文庫）、ネグリ=ハート『帝国』（以文社）

成績評価の方法

履修上の注意

（2 学期）

（金曜 3 限）21 世紀世界論（2）

授業の目標・内容・計画

【目標】

21 世紀（9・11 以降の）世界の諸条件を適確に把握し考察するために必要な横断的・批判的知の構えを作る。

[内容と計画]

まず〈世界化〉の現状を理解するために、われわれの世界像や歴史観を規定している〈世界史〉の再検討を行う。歴史記述の内容ではなく、世界に関する知の自明の枠組みとなっている〈世界史〉を、象徴的制でないしはわれわれの知を支え方向付ける装置として検討する。世界史の概念、世界史的時間とキリスト教的終末論との関係、ヨーロッパという理念の形成、世界化の運動、近代性、世界戦争、世界性の現状、宗教と世俗化などがテーマとなる。

ついで、"ポスト冷戦"と"グローバル化"によって規定される 21 世紀世界で、9・11 以降浮かび上がった新しい世界秩序としての「テロとの戦争」の性格を検討し、そこで問題となる、国家、主権、法秩序、戦争、宗教と政治、などのテーマについて考える。

教材・参考書等

西谷修『「テロとの戦争」とは何か』（以文社）、西谷修

『世界史の臨界』（岩波書店）、『戦争論』（講談社学術文庫）、ネグリ=ハート『帝国』（以文社）

成績評価の方法

履修上の注意

○国際協力論研究 中山 智香子（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（木曜４限）ネオ・リベラリズムの批判的考察（Ⅰ）

授業の目標・内容・計画

1990年代以降、顕著になったネオ・リベラリズムについて、特に政治経済学、メディアとの関わり、国際関係論の相対化という視点から、20世紀全体に視野を広げて考察する。特に（Ⅰ）では政治経済学の「地政学」的側面に焦点をあてる予定である。

教材・参考書等

テキストとして、Neil smith, 2003. *American Empire: Roosevelt's geographer and the prelude to globalization*, Berkeley/Los Angeles/ London: University of California Press.を用いる予定。

成績評価の方法

参加の度合いなどから総合的に評価する。

履修上の注意

英語・日本語でテキストを読み、その双方で議論をできることがのぞましい。

（２学期）

（木曜４限）ネオ・リベラリズムの批判的考察（Ⅱ）

授業の目標・内容・計画

1990年代以降、顕著になったネオ・リベラリズムについて、特に政治経済学、メディアとの関わり、国際関係論の相対化という視点から、20世紀全体に視野を広げて考察する。特に（Ⅱ）ではメディアの政治経済学的文脈を検討する予定である。

教材・参考書等

さしあたり、E. S. Herman & N. Chomsky, 1994. *Manufacturing Consent: the Political Economy of the Mass Media*, vintage.などを考えているが、詳しくは開講時に受講者と相談して決定する。

成績評価の方法

参加の度合いなどから総合的に評価する。

履修上の注意

英語・日本語でテキストを読み、その双方で議論をできることがのぞましい。国際協力論（Ⅰ）を受講済みであることがのぞましい。

○国際協力論研究 花谷 厚（２学期開講）連携講座：国際協力機構

（水曜５限）アフリカ開発協力論

授業の目標・内容・計画

目標：サハラ以南のアフリカを対象とした経済・社会開発の経緯と我が国を含む国際社会による開発援助の実績・評価を踏まえ、貧困問題を中心とする今後の低開発国における開発と援助の諸課題について明らかにする。

内容・計画：

「アフリカの地誌と基層社会」

「アフリカの社会・経済開発の経緯と現状」

「開発援助の果たした役割と評価」

「我が国開発援助の仕組みと実践」

「アフリカの貧困削減に向けた開発と援助の課題」

についての講義と関連文献・論文の講読を通じた授業を行う。

講義に当たっては、我が国開発援助の実践事例を多く用い、具体的な事例を通じて理解できるよう配慮する。

また講義の一環として JICA の開催する公開セミナー・シンポジウム等への参加も案内する。

教材・参考書等

北川勝彦・高橋基樹編著「アフリカ経済論」ミネルヴァ書房

大林稔編「アフリカ：第三の変容」昭和堂
峯陽一「現代アフリカと開発経済学：市場経済の荒波の中で」日本評論社
その他講義で用いる資料は講師側で用意する。

成績評価の方法

期末に 4000 字前後のレポートを提出すること。

授業への参加を評価する。

履修上の注意

○国際協力論研究 笹岡 雄一（1 学期開講・2 学期開講）連携講座：国際協力機構

（1 学期）

（集中講義）Poverty Reduction Strategy and Poverty-Conflict Linkage

Course Description

This course introduces contemporary debates on development strategy in low-income countries. The course covers several current development strategies, but the emphasis is placed on the overarching strategy such as Poverty Reduction Strategy (PRS) and conflict prevention strategy. Many governments in low-income countries have begun to move into the direction of a comprehensive framework of PRS and Public Sector Reform (PSR) since the mid-1990s and generate lessons from its planning and implementation processes. Other important strategies analyzed here include the analysis of poverty-conflict linkages and related assistance strategy such as Gap theory and sub-national strategies such as Sustainable Livelihood (SL) and Rural Development Strategy (RDS).

This workshop prepares students to grasp the today's discussions on PRS, examine its roles and restrictions, and contemplate the necessity of formulating more viable development strategies. For each session, students will be assigned to make presentation on the material, based on which structured discussion will take place. The course materials are provided in the first week. The number of students is tentatively expected to be around ten. Depending on the number, the style of course management can be varied.

Main Textbooks

1. OECD, 2001, "DAC Guidelines on Poverty Reduction (www.oecd.org/home/)"
2. Paul Collier, et al, 2003, "Breaking the Conflict Trap –Civil War and Development Policy ", World Bank Policy Research Report.

Several other articles and papers are to be distributed in advance.

Assessment

Grades will be based on the weighting scheme of class participation (50%) and five-page final paper (50%).

（2 学期）

（火曜 4 限）貧困削減戦略

授業の目標・内容・計画

貧困(poverty)の包括的な意味が途上国、特に低所得国において問われている。貧困者が貧困からどのように脱却するのか―開発の役割―について考えるのが授業の目的である。貧困は経済指標に現れるばかりでなく、5 歳未満死亡率や未就学率（非識字率）、環境の質、ジェンダー、政府や社会制度のガバナンス、さらには貧困者の心理状態などにも関連する多側面的な事象である。一般に低所得国においては社会的制度の能力が弱く、ガバナンスの脆弱性や資源の枯渇から紛争も生じやすく、自然の脅威も受けやすい。これらの脅威に対し、国際社会は 2000 年に途上国の貧困削減の包括的な目標と戦略、モニタリングの方法を共有した「ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)」を宣言し、現在その実現に向けて試行錯誤している。2005 年はその中間評価(Mid-term Review)の年にあたる。

授業は、今年度から半期となったが、内容的には従来通り、貧困の捉え方、所得貧困や非所得貧困、開発戦略の

変遷から始まり、社会セクターや地方（農村）開発の諸様相の検討、ガバナンスや援助コンディショナリティの現状、援助協調や政策一貫性の議論などを通じて、昨今展開する貧困削減戦略(PRS: Poverty Reduction Strategy)についての理解を深め、同戦略と公共セクター改革、公共財政管理、地方分権及び地方開発との関係についても検討する。

本講義は大学院修士課程生を対象として設定するが、熱心な方であれば、学部生の受講も許可する。

教材・参考書等

World Bank, World Development Report 2004“Making Services Work for Poor People”,Oxford University Press（田村勝省訳 世界開発報告 2004「貧困層向けにサービスを機能させる」シュプリング・フェアラーク東京）

そのほか各セッションで適宜紹介する。

成績評価の方法

授業への積極的な参加（出席にとどまらない）を重視し(評定の 60%)、最後に各自のテーマの発表(15 分程度)を求める(40%)。

履修上の注意

英語文献の一般的な読解力が求められる。

○国際協力論研究 鈴木 洋一（通年開講）連携講座：国際協力機構

（水曜 4 限）国際協力の理論・潮流・現場

授業の目標・内容・計画

* 目標

- 以下の計画に示す諸テーマに関わる考察を通して、国際開発とは何か、国際開発に如何に取り組むべきかに関し、参加者がグローバルな視点を持った「地球市民」としてより主体的に判断し、より建設的見解を築いていくことを本講義の主要な目的とします。

* 内容

- 戦後の国際政治経済体制の変貌と開発テーマの多様化の中に、途上国における経済社会開発 および開発協力のあり方（方法・問題・課題など）を、様々な開発主体（更には開発される側）の視点から全般的に、また主要な個別のテーマとして取り上げて考えてみたいと思います。
- 国際および国内の双方のレベルで、かつ政治・経済・社会・文化などのからまる学際的なアプローチで、理論・潮流の他に、協力の現場にも重点を置いて考察します。従って、途上国や国際協力の現場を紹介するビデオその他の視聴覚教材も多用して視覚的にも現実感・臨場感を強調しつつ、参加型・対話型の授業を行いたいと思います。

* 計画

- 若干の変更の可能性はありますが、前期は基本的に講義形式で次のようなテーマをカバーしたいと思います。前期の初めに年間の講義の内容と構成を参加者と検討して決めますが、後期は、参加者各自の関心にそくした自主研究の発表とディスカッションを中心に進める予定です。

<前期>

1. 戦後の国際政治経済環境・開発理論・援助の戦略・動向・主要課題
2. 日本の経済成長・国際協力の歴史および最近の国際協力の主要課題
3. 環境問題
4. 貧困問題
5. 紛争と平和構築／難民／その他
6. 教育・医療・保健と国際協力
7. 開発への女性の参加・ジェンダー／児童／障害者／青少年／その他
8. NGO／NPO
9. 参加型開発（村落開発／地方自治体／地場産業の育成／その他）
10. 人間の安全保障
11. 民主化・Good Governance
12. 地域の開発（例：太平洋の開発—経済・社会・教育など）

13. 経済開発・民営化など

14. その他（地域別・国別の開発／その他の開発課題／各種の国際協力プロジェクト事例）

<後期>

・自主研究発表

教材・参考書等

＊ 毎回の講義でレジュメ／参考資料を作成・配布し、それを使って講義しますので、特定の教材は指定しませんが、例えば以下のような文献も参加者にとって参考になるものと思います。

・外務省編 『我が国の政府開発援助（ODA 白書）（上巻）』（財）国際協力推進協会 各年版

・国際協力事業団年報 各年版 国際協力事業団

・UNDP 国連開発計画 HUMAN DEVELOPMENT REPORT 国際協力出版会 各年版

・草野厚 『ODA の正しい見方』 筑摩書房 1997 年

・絵所秀紀 『開発の政治経済学』 日本評論社 1997 年

・西垣昭／下村恭民『開発援助の経済学 [新版]「共生の世界」と日本の ODA』 有斐閣 1997 年

・西川潤 『人間のための経済学 ― 開発と貧困を考える』 岩波書店 2000 年

＊ その他、参考になる文献、URL、情報も常時、参加者と共有したいと思います。

成績評価の方法

＊ 基本的に、授業での積極的取り組みや自主研究発表を評価の基準とします。知識の量を問うものではなく、その都度のテーマに関する自分の考えの表明や、参加者が自ら選んだテーマを自主的に報告することに期待します。（自主研究、ゼミ論、卒論・・・何でも OK！）

履修上の注意

＊ 講座の目的にもあるように、参加者がグローバルな視点を持った「地球市民」としてより主体的に開発および国際協力を理解・判断し、より建設的な見解を築いていくことが強調されるので、授業に積極的な姿勢で臨んで頂きたいと思います。

＊ また伝言や参加者が自由に意見交換する場としてメーリング・リストに参加して頂き、常時、活用したいと思います。

○国際協力論研究 三瓶 良一（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（火曜 1 限）ジャーナリズムと現代国際関係 I

授業の目標・内容・計画

グローバル化の中で 9・11 後のテロとの戦いが進行する 21 世紀初頭の国際関係は、安全保障と経済外交の両面から地域間や各国間の利害確執が複雑に絡み合っている。政治・外交の出来事を同時進行的にとらえながら、国際協力・相互理解の障害になるパーセプション・ギャップや多国間協調の現状・課題をジャーナリズムの視点を通して考察・展望する。1 学期は主としてアジアに軸足を置いて国際情勢を考える。

教材・参考書等

プリント等。

成績評価の方法

出席状況とレポート等による。

履修上の注意

日々の国際ニュースに意識的に関心を持って接し続けることが望ましい。

（2 学期）

（火曜 1 限）ジャーナリズムと現代国際関係 II

授業の目標・内容・計画

基本のコンセプトは 1 学期と同じ。2 学期は主として安全保障に軸足を置きながらジャーナリズムの視点から現在進行する国際情勢の先を考える。

教材・参考書等

プリント等。

成績評価の方法

出席状況とレポート等による。

履修上の注意

国際的な出来事の背景を意識しながら国際ニュースに接することが望ましい。

○国際協力論研究 酒井 啓子（1 学期開講）

連携講座：日本貿易振興機構アジア経済研究所

（火曜 5 限）Patterns of Armed Conflict: Cases in the Middle East

授業の目標・内容・計画

The purpose of this course is to understand the nature and characteristics of armed conflicts in the contemporary Middle East, especially looking at examples in post-war Iraq. We will cover the roots of 1) ethnic/religious/sectarian conflicts, 2) ideological conflicts, 3) anti-colonial conflicts, and 4) conflicts between states (mainly in Iraq and the Gulf area). In each lecture participants will be asked to give their analysis on certain conflicts that they are more familiar with.

教材・参考書等

Texts will be distributed or references will be mentioned during lectures for participants to cover.

成績評価の方法

Participants will be required to give short presentations at least once during the course, and to submit essays at the end of the course.

履修上の注意

Students from overseas as well as Japanese are welcomed to participate if they are prepared to join and participate in lectures and discussions in English.

○国際協力論研究 大原 盛樹（通年開講）

連携講座：日本貿易振興機構アジア経済研究所

（月曜 3 限）中国産業発展論

授業の目標・内容・計画

中国の産業発展を、自身の歴史的経緯と日本やアジア諸国等とのグローバルな現代的関連の中で理解することを目標とする。できるだけ広く文献に目を通し、知見の幅を広げることに重点を置く。前期は NIEs を中心にした後発産業化諸国の発展モデルに関する代表的な議論を勉強する。後期は具体的な事例を検討する。

教材・参考書等

毎回、複写資料を配付

成績評価の方法

出席とレポートによる。

履修上の注意

受講生には報告を随時行って頂く。

○国際協力論研究 間 寧（1 学期開講・2 学期開講）

連携講座：日本貿易振興機構アジア経済研究所

（1 学期）

（木曜 5 限）Research Method

授業の目標・内容・計画

This course introduces social scientific research method that is essential to the Peace and Conflict Studies program as well

as the International Politics and Economy program in general. The students will be guided from topic selection, research practice, to thesis writing. The major themes of the course include literature review, research design, comparative methodology, case studies, descriptive and inferential statistics, documentary and archival analysis, and academic writing. The course thus covers both qualitative and quantitative approaches.

教材・参考書等

Students who are not in the Peace and Conflict Studies program should obtain the textbook *directly* from Amazon.co.jp before the first class session (Allow at least two weeks for the book to arrive). The other reading materials will be provided in the CD-Rom during the first class.

Textbook: Peter Burnham, Karin Gilland, Wyn Grant, and Zig Layton-Henry, *Research Methods in Politics* (Hampshire: Palgrave, 2004). ¥3,011 (Amazon.co.jp price as of February 8, 2005).

成績評価の方法

Participation in class 40%

Term paper* 60%

*Consisting of literature review, research design, and preliminary results.

履修上の注意

Although there is no prerequisite for registration, a basic knowledge of Excel is recommended.

PCS の授業と共通。

(2 学期)

(木曜 5 限) Cleavage Structures and Political Systems

授業の目標・内容・計画

This course studies the link between cleavage structures and political systems in developing countries. Previous research into politics and sociology in developing countries assumed the preponderance of ethnic, sectarian, and minority factors but paid little attention to their relative importance vis-à-vis, as well as their interactions with, other factors. The concept of cleavage that encompasses differences based on race, tribe, religion, sect, class, language, and region enables us to discuss various social divisions and their importance in relative terms. This course tries to analyze the following questions relevant to countries in developing areas: 1) along which cleavages, various social forces compete over the government or voice their opposition, 2) how the relative importance of major cleavages changes in societies that are undergoing rapid modernization, and 3) which social forces are able to control or penetrate the state apparatus or are excluded from it, and why. Discussion in class will draw on empirical studies across countries including a case study of Turkey.

教材・参考書等

Reading materials will be provided on a CD-Rom during the first class.

成績評価の方法

Participation in class 40%

Term paper* 60%

*On cleavage structures and political systems in general or in a particular country.

履修上の注意

PCS の授業と共通

○比較教育制度論研究 倉石 一郎 (1 学期開講・2 学期開講)

(1 学期)

(木曜 4 限) <発達>のなかに社会を読む・社会のなかに<発達>を読む：ワロン・エリクソン・サリヴァン

授業の目標・内容・計画

本年度は大学院において心理学分野の授業が開講されないことに鑑み、1 学期には発達心理学の内容をカバーする。ワロン、エリクソン、サリヴァンという、発達心理学のみならず教育学、社会学の領域にまで大きな影響を与えた 3 人の理論テキストを読み解くことを通じて、発達と社会との相互に入り組んだ関係を解明する。

教材・参考書等

追って指示する。

成績評価の方法

授業への参加など平常点で評価する。出席を重視する。また、レジュメを作成する際には、ただテキストの該当箇所を要約するのではなく、背後知識を自分で補って作成すること。

履修上の注意

受講者は、英語もしくはフランス語に堪能であることが望ましい。

(2 学期)

(木曜 4 限) 学校教育文化史の世界：佐藤秀夫の著作集を読む

授業の目標・内容・計画

日本における学校教育文化史という新しい領域を切り開き、2002 年に他界した佐藤秀夫の著作集を読み、単調な教育制度史研究から一歩前に出るための道筋を考える。

教材・参考書等

佐藤秀夫『教育の文化史』(全 4 巻) 阿吽社

成績評価の方法

授業への参加など平常点で評価する。出席を重視する。また、レジュメを作成する際には、ただテキストの該当箇所を要約するのではなく、背後知識を自分で補って作成すること。

履修上の注意

必ず 1 学期と併せて通年で履修すること。2 学期のみは不可。

○比較教育制度論研究 岡田 昭人 (1 学期開講・2 学期開講)

(1 学期)

(金曜 4 限) 比較・国際教育学

授業の目標・内容・計画

本講義では比較・国際教育学領域の理論的な枠組と方法論に基づき講義を行う。比較教育学の理論については古典的な比較教育学の理論から最新の理論研究までを取り扱う。また、履修者の関心がある諸外国の教育問題を取り上げ、口頭発表やディスカッションを通して分析・検討する。※主要なトピックス①比較教育学理論、②文化比較の方法と課題、③諸外国の教育問題、④口頭発表指導、⑤論文・レポート指導 (論文執筆のための文献・資料収集の方法やフィールドワークの技法についても紹介する予定)

教材・参考書等

石附実監修 (1999) 『比較・国際教育学』 東信堂

馬越徹・今井重孝監訳 ユルゲンシュリーバー編書(2000) 『比較教育学の理論と方法』 東信堂

箕浦康子(2002) 『フィールドワークの技法と実際ーマイクロエスノグラフィー入門ー』 ミネルヴァ書房

他は適宜、指示する。

成績評価の方法

口頭発表、授業への参加および期末レポートで評価する。

履修上の注意

(2 学期)

(金曜 4 限) 国際理解教育

授業の目標・内容・計画

本講義では国際理解教育を理念や政策の諸側面から論じるとともに、平和・人権・寛容を踏まえながら国際理解教育の歴史的発展や世界における現状と課題について考察する。また、履修者の関心がある国際理解教育のテーマを取り上げ、口頭発表やディスカッションを通して分析・検討する。※主要なトピックス①ユネスコの「国際理解教育」概念の定義、②日本における国際理解教育の授業実践、③諸外国の国際理解教育の動向、

④口頭発表指導、⑤論文・レポート指導（論文執筆のための文献・資料収集の方法やフィールドワークの技法についても紹介する予定）

教材・参考書等

大津和子著（2003）『国際理解教育 地球市民を育てる授業と構想』国土社

魚住忠久著、深草正博著（2001）『21世紀地球市民の育成ーグローバル教育の探求と展開』黎明書房

魚住忠久著（2000）『共生の時代を拓く国際理解教育』黎明書房

他は適宜、指示する。

成績評価の方法

口頭発表、授業への参加および期末レポートで評価する。

履修上の注意

○身体文化論研究 阿保 雅行（1学期開講・2学期開講）

（1学期）

（月曜2限）スポーツ文化論

授業の目標・内容・計画

受講生の興味・関心のある国（または地域）のスポーツ文化、とりわけ特定（不特定）のスポーツとその特徴や背景、制度などについて、各種資料（含インターネット上の情報）から検討し、その国（または地域）におけるスポーツの意義・役割などを検討する。

教材・参考書等

授業中に配布または指示する。

成績評価の方法

出席状況や発表、討論、レポート等から総合的に判断する。

履修上の注意

出席や発表、討論を重視する。

（2学期）

（月曜2限）比較スポーツ文化論

授業の目標・内容・計画

1学期のスポーツ文化論の授業を視野に入れて、少なくとも2ヶ国（または地域）を比較し、ある国または地域におけるスポーツの普及・振興方策などを検討する。例えば、ドイツと英国におけるスポーツ施設の設置基準等を比較分析して、我が国のあり方について考察する。

教材・参考書等

授業中に配布または指示する。

成績評価の方法

出席状況や発表、レポートから総合的に判断する。

履修上の注意

出席や発表、討論を重視する。

○身体文化論研究 東 憲一（1学期開講・2学期開講）

（1学期）

（火曜2限）武道文化論Ⅰ

授業の目標・内容・計画

授業の目標：日本や世界の伝統的運動文化の一つである武道（術）について、歴史や文化などの様々な視点から理解を深める。

授業の内容：文献資料や映像資料を通して理解を深める。

授業の計画：受講生の討論を中心に進める。

教材・参考書等

授業時に資料の配付、紹介をする。

成績評価の方法

出席、発表、討論、レポートから総合的に判断する。

履修上の注意

受講生と相談しながら具体的な内容を決めていきたい。武道の経験の有無は問わない。

（2学期）

（火曜2限）武道文化論Ⅱ

授業の目標・内容・計画

授業の目標：各自で目標を持って武道（術）に係わる研究に取り組む。

授業の内容：受講生の専門領域や研究課題に係わる内容や興味・関心のあるテーマと武道（術）との関連を様々な角度から検討する。

授業の計画：受講生の発表や討論を中心に進める。

教材・参考書等

授業時に資料の配付、紹介をする。

成績評価の方法

出席、発表、討論、レポートから総合的に判断する。

履修上の注意

受講生と相談しながら具体的な内容を決めていきたい。武道の経験の有無は問わない。

○身体文化論研究 真鍋 求（1学期開講・2学期開講）

（1学期）

（木曜1限）脳と神経科学Ⅰ

授業の目標・内容・計画

目標 ニューロンの特性や、中枢神経系の構造と感覚受容や運動発現の機能について概説し、神経科学の基本的な情報をどのようにとらえるか検討する。

（1）ニューロンの特性

生体膜と膜電位、チャネルやポンプ、活動電位と神経スパイク、他

（2）シナプス伝達と伝達物質

伝達物質、受容体とその構造、伝達の機構、開口分泌、他

（3）脳の構造と機能

脊髄（分節構造と立体関係）、脳幹（延髄、橋、中脳の神経核）

小脳、大脳基底核、視床、大脳（皮質の構造、分野と機能地図、機能円柱）

教材・参考書等

プリントを配布する。参考書などは授業の中で紹介する。

成績評価の方法

レポートで評価する。

履修上の注意

（2学期）

（木曜1限）脳と神経科学Ⅱ

授業の目標・内容・計画

中枢神経系の身体運動制御に関わる様々な機構や、言語と言語野の関係について概説する。

また受講生それぞれの専門分野から情報提供をしてもらいそれらについて検討する。

- (1) 運動制御の神経機構 小脳と運動制御、大脳基底核運動制御、歩行の神経機構、他
- (2) 失語症、運動性言語野、感覚性言語野
- (3) 高次神経機能 学習と記憶、LTPとLTD、シナプスの可塑性、他
- (4) 受講者からの情報提供

教材・参考書等

プリントを配布する。参考書などは授業の中で紹介する。

成績評価の方法

レポート等で評価する。

履修上の注意

○比較社会論研究 中野 敏男（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（金曜 4 限）近代文化と植民地主義の比較社会論 I

授業の目標・内容・計画

今日の世界になお支配的な影を落としている人種主義や植民地主義の文化的な基盤を考えるために、文学や思想などの作品をみんなで協力して読み解き比較し合いながら、近代的な諸文化形象の成り立ちと植民地主義との内在的な関係を考えていく。「植民地主義の比較社会論」をテーマにした継続するセミナーの一環だが、今年度だけでも履修可能なように、内容や進め方については相談の上進めていく。

教材・参考書等

Edward W. Said, *Culture and Imperialism*, Vintage Books, 1993. (サイド『文化と帝国主義』1. 2、みすず書房、1998/2001 年)。フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』(みすず書房、1998 年)。ガッサン・ハージ『ホワイト・ネイション』(平凡社、2003 年)。

成績評価の方法

毎回の討議や作業への寄与、分担報告の質を基礎に評価する。

履修上の注意

毎回の討議は、時限を超えて延長されることになるだろう。そのため、木曜 5 限も他の科目を履修せずに空けておくこと。

（2 学期）

（金曜 4 限）近代文化と植民地主義の比較社会論 II

授業の目標・内容・計画

「植民地主義の比較社会論」をテーマにした継続するセミナーの一環で、近代的な諸文化形象の成り立ちと植民地主義との内在的な関係を考えていく前期授業の継続である。

教材・参考書等

Edward W. Said, *Culture and Imperialism*, Vintage Books, 1993. (サイド『文化と帝国主義』1. 2、みすず書房、1998/2001 年)。フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』(みすず書房、1998 年)。ガッサン・ハージ『ホワイト・ネイション』(平凡社、2003 年)。

成績評価の方法

毎回の討議や作業への寄与、分担報告の質を基礎に評価する。

履修上の注意

毎回の討議は、時限を超えて延長されることになるだろう。そのため、木曜 5 限も他の科目を履修せずに空けておくこと。

○比較社会論研究 千田 有紀（１学期開講・２学期開講）

（火曜４限）ネオリベラリズムとジェンダーⅠ・Ⅱ

授業の目標・内容・計画

ネオリベラリズムに関する基本的な理論書を読み、とくに人種、階級、ジェンダーに焦点を当て、現在進行している近代国家の再編成、セキュリティのあり方、などについて理解を深める。その後、ネオリベラリズムに関してテーマを決めて、自由発表とディスカッションを行う。

教材・参考書等

授業の最初に参考文献リストを配布する。

成績評価の方法

基本的に授業参加による。

履修上の注意

Ⅱを履修する際には、Ⅰを履修していることが望ましい。

○比較政治論研究 小笠原 欣幸（２学期開講）

（月曜４限）East Asian Politics

授業の目標・内容・計画

The class will examine different types of political structure and nationalism in China, Taiwan, Korea, and Japan. The class will also discuss about the changing nature of the relationship between Taiwan and China, while paying attention to their domestic factors, international political and economic factors.

教材・参考書等

To be announced in the class.

成績評価の方法

Examination

履修上の注意

PCSの授業と共通

○比較政治論研究 大川 正彦（１学期開講）

（木曜３限）〈生命-政治〉論の現在

授業の目標・内容・計画

生命倫理の基本的なことがらについて学ぶとともに、生命にかかわり、いま政治がどのように介入しているのかを知る。また、徹底して調べて、ものを書くとはどういうことか、を著者から学びたい。

ALS（筋萎縮性側索硬化症）当事者の語りを渉猟したテキストを徹底して精読する。

テキストの詳細については、著者のHPをあらかじめ参照のこと（<http://www.arsvi.com/>）。

教材・参考書等

立岩真也『ALS 不動の身体と息する機械』医学書院、2800円

成績評価の方法

演習形式でおこなう日頃の報告・討議（８０％）、および学期末論文（２０％）で評価する。

履修上の注意

テキストは各自購入のこと。

○比較政治論研究 船田クラークン さやか（1学期開講）

（月曜3限）国際関係とアフリカ

授業の目標・内容・計画

現代アフリカ地域が抱える諸問題を考える際、歴史的に形成されてきた国際関係とのかかわりは重要である反面、この点についての理解は十分であるとはいえない状況にある。

したがって、この講義では、世界史の中でアフリカ地域が果たしてきた役割を多角的（政治・社会・経済的）な切り口から明らかにするとともに、アフリカの現状や日本の対アフリカ政策/援助について受講生とともに一緒に考えたい。

前半は、基礎文献を読み進めながらの講義、後半は受講生が参加できるリサーチ手法を取り入れる。

教材・参考書等

北川勝彦&高橋基樹『アフリカ経済論』ミネルバ書房

成績評価の方法

授業への参加状況、プレゼンテーション、リサーチによって評価する。

履修上の注意

『新書アフリカ史』講談社（読み終えておくこと）

○比較宗教論研究 丹羽 泉（通年開講）

（火曜3限）文化比較をめぐる方法論的検討

授業の目標・内容・計画

授業は原則として演習形式で進める。1学期は、宗教社会学に関する諸論文をテキストとして用い、宗教比較をめぐる方法論的な諸問題に関する議論を通じて、当該領域に関する理解の共有を図る。2学期は、「社会科学的な意味における地域研究はいかにして可能か」という課題を共通のテーマとして設定し、参加者は、自らの扱う修士論文のテーマを「地域研究の方法」という観点から批判的に検討した内容の報告を毎回おこなう。その際、かならず共通テーマと関連づけた問題を設定し、討論のための問題提起をおこなう。1学期・2学期末には、それぞれ総括討論を行なう。

なおゲストのスピーカーを招いたセミナーもできれば設定したい。なお授業担当教官も参加者の一人として自らの研究テーマについて問題提起をおこなう予定である。

教材・参考書等

『社会科学の方法』M.ヴェーバー著 祇園寺信彦ほか訳 講談社学術文庫、
『宗教社会学論選』M.ヴェーバー 大塚久雄ほか訳 みすず書房

成績評価の方法

授業への参加状況および年次レポートによる。

履修上の注意

授業の成否は、ひとりひとりの自発的な参加の意思にかかっているため、履修対象者は年間を通じた積極的な参加が可能な者だけに限りたい。

○比較宗教論研究 町田 宗鳳（1学期開講）

（火曜3限）宗教体験の比較研究

授業の目標・内容・計画

授業目標：宗教的イデオロギーの違いが、国際紛争の一因となっていることは、つとに指摘されるところだが、宗教体験そのものの本質には、諸宗教間に普遍的なものが見いだされる。歴史学的手法と心理学的手法を両立させ、そこから人種や文化を超えた人間性の共通基盤を模索する。

主な学習項目：宗教体験と〈狂い〉 救いとは何か ゴーエー的生命感覚 生の座標軸と死の座標軸 人間と自然
授業計画：教材の講読を中心にして、その内容について詳しく議論する。

教材・参考書等

町田宗鳳著『〈狂い〉と信仰』PHP新書

町田宗鳳著『前衛仏教論』ちくま新書

町田宗鳳著『なぜ宗教は平和を妨げるのか』講談社+α新書

成績評価の方法

出席状況と各学期末レポートの総合評価。

履修上の注意

○比較法制度論研究 鈴木 美弥子（1学期開講・2学期開講）

（火曜3限）民法研究1・2

授業の目標・内容・計画

民法は、私人間の法律関係を幅広く規律する、私法の基本法である。本年度は、民法に関する法律問題のうち、企業活動と関わりのあるもの、例えば、製造物責任、企業の公害・環境問題への対処、消費者取引における被害、およびその規制などを取り上げ、民法を基点とした、企業活動に対する法の関与を検討する。

最初に、具体的な問題を検討するにあたり必要な、民法、および関連法の部分を扱い、それから、個別の具体的な問題に入りたい。

教材・参考書等

扱うテーマにより適宜指示する。

成績評価の方法

原則として、授業への出席と報告により評価する。

履修上の注意

具体的なテーマについて、履修者の希望があれば考慮する。

○国際関係論研究 オブラス ピーター ブライアン（1学期開講・2学期開講）

（1学期）

（火曜4限）International Relations and the Nation-State System I

The course considers the fundamental principle of the nation-state system, sovereignty, and defines the discourses of civilization that manage and control the relations of the nation-states, especially with regard to clashes of civilization. Particular focus will be placed on the source of the discourses, i.e., on how knowledge-power regimes impact on North-South relations. For those students interested in sovereignty and human security concerns, a special reading list will be provided concerning sovereignty and human security. The class lectures and discussions will be based on the texts and additional materials. Students will provide presentations and reports. Required sources: (Text) *Orientalism*, Edward Said. Text is available in Japanese. Supplementary materials provided.

（2学期）

（火曜4限）Post-Nationalism and Civic Ties II

The course focuses on opportunities for new knowledge-power regimes and considers the perspective of a post-nationalism of civic ties unfolding into global federations, unions and organizations to generate movement from a development state political system to a basic needs political system. For those students interested in the ambiguities of the concept of human security, a special reading list will be provided. The class lectures and discussions will be based on the texts and additional materials. Students will provide presentations and reports. Required resources: (Text) *International Development and the Social Sciences*, ed. Frederick Cooper; (Text) *Nationalism*, ed. Anthony Smith; and additional references.

○国際関係論研究 高杉 忠明（通年開講）

（金曜 2 限）アメリカのアジア政策

授業の目標・内容・計画

前期は、国際関係論の基礎概念や考え方を学習しつつ、アメリカ外交史に関する基礎的文献を何冊か精読する。授業では、建国期から現在に至るアメリカ外交の歴史的な特徴を様々な角度から検討する。

後期は、アメリカに東アジア外交を、日米関係、米中関係、米台関係などを中心に政策面から分析し、検討したい。

また必要に応じて理論的側面にも目を向ける。授業は、履修者の報告と討論によって進めて行く。

教材・参考書等

授業において、適宜紹介する。

成績評価の方法

出席、プレゼンテーションならびに学期末のレポートに基づいて総合的に評価する。

履修上の注意

特にありません。

○国際関係論研究 渡邊 啓貴（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（水曜 2 限）国際政治／EU 研究 I

授業の目標・内容・計画

本授業では、国際関係論全般についての基礎理解をした上で、ヨーロッパ国際政治についての基本的概念・歴史的知識・理論を学習し、その上で冷戦終結後の今日の状況を議論し、分析する。具体的なテーマとしては、ヨーロッパ統合、NATOなどを扱う。和英の文献を皆で読むと同時にテーマを設定して、各自の報告を行う。

教材・参考書等

授業の中で指示する。

成績評価の方法

報告及びレポート

履修上の注意

（2 学期）

（水曜 2 限）国際政治／EU 研究 II

授業の目標・内容・計画

本授業では、ヨーロッパ外交・安全保障政策や米欧同盟関係を、日米同盟関係と比較考察する。それぞれの専門に近い地域での安全保障問題を発表したり、米国の二つの同盟関係に関する和・英文の文献を読み、討議する。

教材・参考書等

授業の中で指示する。

成績評価の方法

報告及びレポート

履修上の注意

○国際関係論研究 井尻 秀憲（１学期開講・２学期開講）

（木曜２限）国際関係の理論と冷戦後の東アジアの国際関係 17-1・2

授業の目標・内容・計画

このコースは、国際関係の理論と冷戦後の東アジアの国際関係についてセミナー形式で行う。理論面では、ウォルツ、ギャディス、ホフマン、ブル、ラセット、グーベッチ、ナイ、シュナイダー、ジョンソン、アイケンベリー、冷戦後の東アジアについては、アメリカの東アジア政策、中国、台湾、朝鮮半島に関する英語論文を読む。発表者が要約・報告し、全員で討論する。

教材・参考書等

理論面では、K. Waltz, J.L. Gaddis, S. Hoffmann, H. Bull, B. Russett, Gourevitch, J. Nye, J. Snyder, C. Johnson, J. Ikenberry、冷戦後の東アジアについては、J. Ikenberry, R. Ross, T. Christensen, D. Shambaugh らの英文論文を教材として用いる。教材コピーは、こちらで用意する。

成績評価の方法

毎週の出欠、英語文献の要約・発表、討論の内容に加え、授業最終日に提出が要求される短いエッセイの内容をみて成績評価をおこなう。

履修上の注意

英語論文を読む能力が要求されるが、要約・発表は日本語と英語のどちらでもよく、英語の話す能力は要求されない。ただし、日本語を理解しない履修者がいる場合は、誰かが通訳することになる。

○国際関係論研究 若松 邦弘（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（月曜５限）比較政治制度論Ⅰ

授業の目標・内容・計画

自由民主主義諸国における公共政策の決定と運営に関するメソレベルの理論を検討する。具体的には、利益集団論、政策ネットワーク論、コアエグゼクティブ論などを射程に入れている。今年度は、イギリスの政策過程を主たる題材とするが、他の国・地域を研究している人の参加も歓迎する。

教材・参考書等

各回の輪読文献（基本的に英語論文）は開講時に指示する。

成績評価の方法

発表 60%、レポート 40%

履修上の注意

とくになし。

（２学期）

（月曜５限）比較政治制度論Ⅱ

授業の目標・内容・計画

自由民主主義諸国における公共政策の決定と運営に関するメソレベルの理論を検討する。具体的には、利益集団論、政策ネットワーク論、コアエグゼクティブ論などを射程に入れている。今年度は、イギリスの政策過程を主たる題材とするが、他の国・地域を研究している人の参加も歓迎する。（比較政治制度論 の継続）

教材・参考書等

各回の輪読文献（基本的に英語論文）は開講時に指示する。

成績評価の方法

発表 60%、レポート 40%

履修上の注意

前学期開講の「比較政治制度論Ⅰ」を既に履修していることが望ましい。

○国際関係論研究 石橋 可奈美（通年開講）

（1 学期）

（木曜 4 限）国際環境法研究 I

授業の目標・内容・計画

地球温暖化や生物多様性の喪失といった地球規模の環境問題についてどのような法的アプローチが可能か、受講生の関心に応じてテーマを選び、日本語又は英語の論文を読む。受講生は分担してレジュメを作成し、発表する。

教材・参考書等

デジタルのデータベースである Lexis を使うほか、適宜指示又は配布。

成績評価の方法

発表及びレポート

履修上の注意

国際法を履修したことがない場合には、テキストを同時並行で読むことが望ましい。

（2 学期）

（木曜 4 限）国際環境法研究 II

授業の目標・内容・計画

地球温暖化や生物多様性の喪失といった地球規模の環境問題についてどのような法的アプローチが可能か、受講生の関心に応じてテーマを選び、日本語又は英語の論文を読む。I に引き続き、II では各論として、とくに Issue に特化したテーマ設定を試みる。受講生は分担してレジュメを作成し、発表する。

教材・参考書等

デジタルのデータベースである Lexis を使うほか、適宜指示又は配布。

成績評価の方法

発表及びレポート

履修上の注意

国際法を履修したことがない場合には、テキストを同時並行で読むことが望ましい。

○国際法論研究 西立野 園子（通年開講）

（水曜 2 限）国際法論研究

授業の目標・内容・計画

国連は、平和と人権とが密接な関係にあるとの歴史的教訓に立って、第二次世界大戦後、人権条約の制定とその履行の保障に力を注いできた。授業では、マイノリティの権利、外国人の地位、難民の保護、国際組織犯罪などに関する国連その他の国際機関の活動あるいは条約等について学ぶ。

教材・参考書等

『国際人権・刑事法概論』尾崎久仁子著、信山社、その他開講時に指示する。

成績評価の方法

レポート

履修上の注意

国際法の既修者ないし学部で同時履修することが望ましい。

○国際経済論研究 熊倉 修一（1 学期開講・2 学期開講）

連携講座：日本銀行金融研究所

（水曜 4 限）これからの日本経済を考える 1・2

授業の目標・内容・計画

目標：1990 年代のバブル崩壊、国際的な経済連関の強まりなどを通じて現在の日本経済は大きな変化を遂げつつ

ある。また、急速な勢いで少子・高齢化が進展している。こうした情勢の中で、21 世紀の日本経済はどのような方向に歩んでいこうとしているのか。授業ではこうした大きな命題を考える前提として、まず日本の経済・金融の歩んできた過程を振り返るとともに、そうした過去・現状に関する認識を踏まえつつ、「少子化」の進展という未曾有の事態が避けられないとの視点から、これからの日本経済の進む道を展望する。

内容：演習形式の授業を基本とする。教官による講義と受講者による報告（輪番）をもとに議論を行なう。

計画：具体的な授業の進め方は受講者と相談して決定するが、大まかなイメージを示せば以下の通り。

（1 学期）第二次世界大戦終了後から現在に至るまでの日本経済の足跡を丹念に辿る事により、日本経済の過去および現状に関する認識を新たに作る。

（2 学期）近い将来に避けられない「少子化」に向けた動きを捉えて、これからの日本経済・金融の姿について大胆な議論を進める。

単独の学期だけ参加しても支障のない形で授業を進めるつもりではあるが、できれば通年で聴講することが望ましい。また、いずれの学期においても、必要に応じて最近のトピックスやデータを織り交ぜて議論を深めていきたい。

教材・参考書等

両学期とも下記の本をテキストとして輪番に読み進める。また、参考書は必要に応じて随時示す。

（1 学期）・橋本寿朗 著「戦後の日本経済」 岩波書店〈岩波新書 398〉（1995 年）

（2 学期）・松谷明彦 著『「人口減少経済」の新しい公式』日本経済新聞社（2004 年）

成績評価の方法

提出を求められたレポートの内容に加え、授業への出席状況、授業での報告・発言などを総合的に勘案して評価する。

履修上の注意

①経済学や金融論に関する専門的な知識はとくに必要としない。

②授業の効果を上げるために、受講者には自由闊達な議論を期待する。

○国際経済論研究 阿川 裕里（1 学期開講・2 学期開講）

連携講座：日本銀行金融研究所

（水曜 2 限）日本占領と戦後改革（その 2）1・2

授業の目標・内容・計画

目標：

昨年度に続いて「日本占領と戦後改革」をテーマとするが、とくに本年度は農地改革に焦点をあてる。戦前の日本では、地主制のもとで大多数の農民は小作人の立場を余儀なくされ、高率の小作料を徴求された。地主・小作関係は、対等な契約関係ではないという意味で封建的な性格が強く、それが農業生産の停滞と農村の貧困という日本資本主義の特徴をもたらす有力な原因になったとされる。しかし、戦後 GHQ の占領改革の一環として行われた農地改革によって、地主制は抜本的に解体された。そして、小作農から自作農に昇格した農家は生産意欲を高め、農業投資を積極的行うとともに、政治的には保守政権を支える有力な勢力となったというのがこれまでの通説である。

しかし、こうした通説については近年、開発経済学の立場からその妥当性に多くの疑問が提起されている。たとえば戦前の地主制は農業生産の停滞の原因であったのか、逆に戦後の農地改革は農家の生産意欲を高める要因になったのかなど。授業では戦前の地主制と戦後の農地改革について開発経済学の視点も交えながら検討を加えてみたい。

内容：

演習形式の授業を基本とする。

教材・参考書等

農地改革の意義を検討した研究

・東京大学社会科学研究所編『戦後改革 6 農地改革』東京大学出版会、1975 年

・川越俊彦「農地改革」『戦後日本の経済改革』東京大学出版会、1993 年

戦前日本の地主制に関する近年の代表的な研究

・中村政則『近代日本地主制史研究』東京大学出版会、1979 年

・西田美昭『近代日本農民運動史研究』東京大学出版会、1997 年

農地改革後の農村の変貌をビビッドに伝える古典的名著

・並木正吉『農村は変わる』岩波新書、1960 年

開発経済学の視点から日本の戦前から現代までの農業問題を検討したテキスト

・速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』岩波書店、2002 年

開発経済学の優れたテキスト

・速水佑次郎『新版 開発経済学—諸国民の貧困と富』創文社、2004 年

成績評価の方法

授業での報告・発言、レポートの提出のほか、出席状況などを総合的に勘案する。

履修上の注意

経済学の専門的な知識は求めないが、多少難解な専門書に取り組むので、相応の忍耐心と探求心を求めたい。
また途中で休むと内容が理解できなくなるので、継続的に出席できることを条件とする。

○国際経済論研究 畑瀬 真理子（2 学期開講）

○国際経済論研究 鈴木 義一（1 学期開講・2 学期開講）

（1 学期）

（金曜 2 限）経済体制の歴史的考察

授業の目標・内容・計画

旧ソ連地域をおもな対象として、計画経済体制の成立・拡大・変容・崩壊の過程についての近年の研究動向を概観します。とくに、体制転換過程のロシアの政治学・経済学・歴史学において、ソヴィエトの政治・経済体制の分析枠組みがどのような状況にあるかを中心に考察します。

初回にテキスト・参考文献のリストをもとに具体的な授業計画を決め、順次講読します。また、各自の修士論文の題目に関連する研究発表を求めます。

教材・参考書等

Slavic Review, Europe-Asia Studies, Otechestvennaia istoriia, Voprosy istorii などの雑誌からセレクトしたテキスト・参考文献の一覧を、初回の授業で配布します。

成績評価の方法

授業での報告・討論によって総合的に評価します。

履修上の注意

（2 学期）

（金曜 2 限）比較経済体制

授業の目標・内容・計画

ロシア、中東欧の新規 EU 加盟国、中央アジア諸国をおもな対象にして、体制転換の過程を比較研究します。所有制度の再編、企業統治、通貨・金融制度などについて、各国の現状と問題を考察した近年の論文を、順次講読します。また、各自の修士論文の題目に関連する研究発表を求めます。

教材・参考書等

Slavic Review, Europe-Asia Studies, Post-Communist Economies, Central Asian Survey, Voprosy ekonomiki, Obshchestvo i ekonomika, などの雑誌からセレクトしたテキスト・参考文献の一覧を、初回の授業で配布します。

成績評価の方法

授業での報告・討論によって総合的に評価します。

履修上の注意

○国際経済論研究 沢田 ゆかり（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（月曜２限）中国の経済発展と社会変動

授業の目標・内容・計画

目標＝（１）中国における市場化の進展と、社会的影響を理解する。

（２）東アジアの発展途上国が市場経済の下でどのような社会安全網を形成したのかを考察する。

内容＝アジアの産業構造の変動を理解し、中国の市場化と労働市場の改革を論じる。

計画＝以下の項目を扱う。

（１）アジアの工業化の再配置、（２）国有企業改革の進展、（３）外資企業の導入と私営企業の成長、

（４）労働市場の流動化

教材・参考書等

丸川知雄『現代中国経済シリーズ３：労働市場の地殻変動』名古屋大学出版会ほか。

成績評価の方法

授業への出席、授業での発表内容、教室での発言の回数、教官および教室での質問への回答、学期末レポートから総合的に評価する。

履修上の注意

特になし。

（２学期）

（月曜２限）中国の経済発展と社会保障制度改革

授業の目標・内容・計画

目標＝東アジアのグローバル化のなかで、中国がどのような社会保障改革を施行しているのかを考察する。

内容＝柔軟な労働力市場と社会保障制度改革の展開を論じる。また市場親和的な社会保障制度の成立経緯を確認する。東アジア NIE とラテン・アメリカや先進国の社会保障制度改革を分析し、中国の選択肢を検討する。

計画＝以下の項目を扱う。

（１）社会保険改革の現状、（２）福祉国家論の限界、（３）途上国の社会保障改革「ラテンアメリカ」

（４）同左：「東アジア NIE s」、（５）先進国の高齢化と福祉、（６）中国の選択と問題

教材・参考書等

大沢真理編『アジア諸国の福祉戦略』（ミネルヴァ書房） 宇佐見耕一『新興福祉国家論』（アジア経済研究所）、ほか。

成績評価の方法

授業への出席、授業での発表内容、教室での発言の回数、教官および教室での質問への回答、学期末レポートから総合的に評価する。

履修上の注意

中国語と英語の文献を多読するため、この３言語の長文を読解する語学力が必要である。

○国際経済論研究 蒲生 慶一（１学期開講・２学期開講）

（１学期）

（金曜２限）国際経済学Ⅰ

授業の目標・内容・計画

国際経済学の基礎理論を学習し、自らそれを用いて現実の国際経済問題を分析できるように訓練することが、この授業の目標です。また、このような目標を達成するために必要な経済学の基本事項を学習し習得することも、この授業のもうひとつの目標です。授業は１学期の３分の２程度を経済学の基礎理論の学習に費やし、残りの３分の１で国際経済学の基本事項について理解を深めていきたいと思います。

なお、この授業は、本学大学院において地域研究の対象として当該地域経済を研究する際に、その参考となるような経済学の基礎知識を参加者とともに学習し習得することに力点をおきたいと考えていますので、初級・中級レベルの経済学の理論を既習済みの人には不向きかもしれません。また、授業は演習形式でおこないます。

教材・参考書等

以下の図書をテキストとして使用します。各自必ず購入してください。

伊藤元重『入門 | 経済学』（第2版）日本評論社。

澤田康幸『基礎コース 国際経済学』新世社（サイエンス社）。

成績評価の方法

授業への出席と参加度を中心に総合評価します。レポートや試験をおこなう場合もあります。

履修上の注意

演習形式で授業を進めるので、毎週、参加者にテキストの担当部分を報告してもらうことになります。

（2学期）

（金曜2限）国際経済学Ⅱ

授業の目標・内容・計画

国際経済学の基礎理論をベースに現代の世界経済が抱える諸問題や国際経済学に関連する経済学の他の領域について、文献輪読を中心にしながら理解を深めていきます。また、そのことを通して、経済学的に問題を捉え分析するための能力を身につけるようにしたいと思います。

教材・参考書等

現段階では、以下の図書をテキストとして使用しようと考えていますが、シラバス執筆以降に出版された図書でよいものがあれば、それに差し替えます。第1回目の授業のときに具体的に指示します。

浜田宏一・堀内昭義『論争 日本の経済危機：長期停滞の真因を解明する』日本経済新聞社。

立石剛・星野郁・津守貴之『現代世界経済システム：グローバル市場主義とアメリカ・ヨーロッパ・東アジアの対応』八千代出版。

青木昌彦『経済システムの進化と多元性：比較制度分析序説』東洋経済新報社。

寺西重郎『日本の経済システム』岩波書店。

成績評価の方法

授業への出席と参加度を中心に総合評価します。レポートや試験をおこなう場合もあります。

履修上の注意

演習形式で授業を進めるので、毎週、参加者にテキストの担当部分を報告してもらうことになります。

○環境経済論研究 新熊 隆嘉（1学期開講・2学期開講）

（火曜4限）環境経済学理論研究1・2

授業の目標・内容・計画

今年度のテーマは途上国の環境問題である。そのために開発経済学の基礎理論を1学期に学び、2学期は途上国の環境問題に関する論文を英文ジャーナルからピックアップして輪読する。

教材・参考書等

プリントを配布する。（コピー枚数が膨大になる場合は、参加者に実費を負担していただくこともある。）

成績評価の方法

内容の理解度によって評価する。

履修上の注意

高校レベルの数学とミクロ経済学の基礎知識は必須である。